

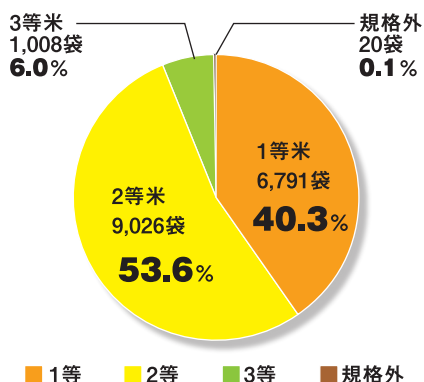


令和7年産米の報告

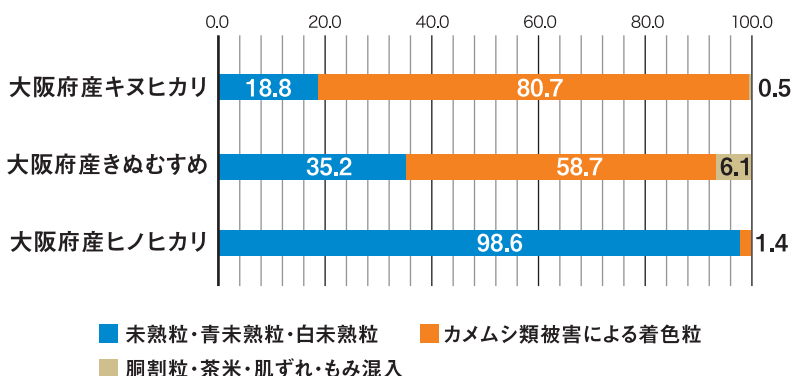
令和7年産米の集荷・買取数量 **16,845袋 505,350kg** (11月14日現在)



検査数量中の1等・2等・3等米の割合



2等・3等に格付けされた理由の割合



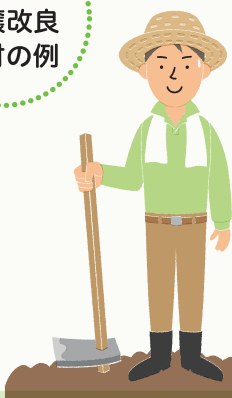
令和7年産米のJA買取分の等級割合は上図の通りです。 昨年より1等米が増加しましたが、昨年同様、連日の高温や水不足により、白未熟粒や充実不足による未熟粒が目立つ結果となりました。カメムシの防除対策も引き続き行いましょう。

ケイ酸入り
土壌改良
資材の例



とれ太郎

3～4月頃に60～80kg/
1反(10a) 散布し、すき込む。



土づくりをしましょう

耕すときは15～20cmほどの深耕を行い、稲が根を伸ばし栄養分を十分吸収できるようにすることで、白未熟粒を減らすことにつながります。また、ケイ酸資材を施用することで水稻の光合成を促進したり、登熟期が高温になった年でも葉から水分の蒸散を適切に行い稲の温度を下げるができます。

白未熟粒とは

穂が実る時期に高温が続くと登熟が不十分になり、粒の中に隙間ができ、光が乱反射して白く見えるものです。

白未熟粒の対策

カメムシに対応のある薬剤の例

農薬名	散布量	使用時期/使用回数	備考
スタークル豆つぶ	250g/10a	収穫7日前まで ／3回以内	ひしゃくを使い、田んぼに入らなくても散布できる。
スタークル粒剤・粉剤DL	3kg/10a		粉剤は飛散するため、散布時は風の強さを確認する。住宅が密集している地域では、使わないようにする。
トレボン粉剤DL	3～4kg/10a		

薬剤防除のポイント

- 天気予報をチェックして、台風や大雨前の散布は避けましょう。
- 粒剤や豆つぶ剤は、水深3～5cmを保ち散布しましょう。
- 水田内に雑草があると十分に効果が得られないため、除草剤を使用する・抜く等で対策をしましょう。

出穂5～7日後に1回目の農薬散布をします。10～14日後に2回目を追加散布しましょう。

薬剤防除

草刈りは出穂2週間前までに行い、畦畔のカメムシの生息地をなくしましょう。

耕種的防除

カメムシの対策